

第1学年 道徳学習指導略案

3組 計27人(男子16人, 女子11人)
指導者 諸平幸奈

- 1 主 題 名 すこしだからいいのかな (C 規則の尊重)
教材名「おおひとやま」(日本文教出版1年)

2 本時で目指す子供の姿

主体性	きまりを守ることは大事だと分かっているけど、実現できないことがあるということに気づき、自己の生き方について考えることを通して、これからの学習や実生活に生かそうとする。
協働性	友達との「学び合い」や教師とのやりとりを通して、きまりを守ることについての自分の考えを深めたり、広げたりする。
創造性	自分勝手な考えに負けず、きまりを守ることの大切さを考え、実践しようとする。

3 主題について

(1) 主題の位置とねらい

規則の尊重とは、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切に、義務を果たすことである。本主題では、約束やきまりはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守るために必要な考えに気付くようにする。また、少しだからいいという自分勝手な行動を慎み、みんなで使う物や場所を進んで大切にしていこうとする道徳的な判断力や態度を育むことができるようにする。

(2) 全体計画(別葉)における本主題の位置付け

【全体計画(別葉)】

生活科「たのしいあきいっぱい」(10月): 公園のきまりを守って、落ち葉や木の実を集める。
体育科「鬼遊び」(11月): 約束を守って、学級みんなで楽しく活動する。

【本 時】補充・深化・統合

11月「すこしだからいいのかな」(C 規則の尊重)
『おおひとやま』 ※ 互いが心地よく過ごす(相互の安定)

【家庭や地域社会との連携】

学級通信(登校パトロールで登下校のルールの確認や登下校の見守りを依頼する。)

4 子供の実態

本学級の子供は、生活の中には様々なきまりがあり、そのきまりは守らなくてはならないということは理解できつつある。しかし、「少しくらいならいいのではないか。」という自分勝手な考えで守れないこともある。また、自分勝手な言動が周りの人を嫌な気持ちにさせてしまうこともあると気付いていない子供も少なくない。そこで、本時では、自分勝手な考えに負けず、個人や集団が気持ちよく安心して生活できるようにするためにもきまりを守ろうとする気持ちについて考えるようにする。

5 教材について

本教材は、村を雨や風から守っている「おおひとやま」と呼ばれていた山についての話である。この山に登ると幸せになれるという言い伝えから、人々は山の石を持ち帰るようになり、山の石が少なくなった。そのため、「石を持って帰ってはいけない」というきまりができたが、人々はこっそり持ち帰り、山が次第に小さくなり、ついには村が水浸しになったという話である。「少しくらい」という自分勝手な心できまりを守らないことが、自分たちの安全で安心な生活を脅かすことにつながると気づき、きまりを守ることの大切さを考えることができるよう、本教材を活用する。

6 指導に当たって

(1) 主体的な学びを実現する教師の手立て

前時までの規則の尊重の授業で考えたことを振り返った後、給食のもぐもぐタイムで少しだからいいだろうと話をしてしまう場面を示すことで、きまりを守ることは大切だと分かっているけど守れないことがあったと自己を振り返ることができるようにする。その後、自分のめあてを立て、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。また、振り返りで本時で考えたことを記述することで、実生活の中で生かそうとする考えをまとめることができるようにする。

(2) 対話的な学びを実現する教師の手立て

石を持ち帰る人に何と声を掛けるか自分の考えをワークシートに書いた後、グループで伝え合う。その際、対自分の考えと対周囲の考えとに分類し、自分と友達のを比較する。その後、役割演技をし、グループで伝え合った考えを全体で伝え合う。そうすることで、きまりを守ることは、みんなの安全で安心な生活につながると気付くことができるようにする。

(3) 深い学びを実現する教師の手立て

きまりを守る行動を支えるのは、「みんなが気持ちよく安心して過ごせるようにしたい」という気持ちであることを捉えた後、「自分が幸せになれるなら、少しくらいならきまりを守らなくてもいいのか。」と発問することで、心の弱さに負けない考えまで深めることができるようにする。

7 本 時

(1) ねらい

きまりを守ることができない心の弱さを乗り越える気持ちの大切さを考えることを通して、きまりとはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、きまりを守って生活しようとする態度を育てる。

(2) 展 開 □ 教師の言葉掛け □ 子供の反応 ◆ 重点評価項目 ☆ICT 活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
気 付 く (7)	<p>1 これまでのきまりについての学習を振り返り、きまりを大切にしたい気持ちは分かっている、実際にできないことがあることを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> きまりは守らなければいけないと分かっている、本当にいつもきまりを守れていますか。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> もぐもぐタイムで話をしちゃったな。だって、自分だけならいいかなと思ったから。 </div> <p>2 本時のめあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> いつでもきまりをまもるためには、どうすればよいか。 </div> <p>3 パネルシアターで教材の内容を聞き、おおひとやまに登る人の気持ちを考える。</p> <p>(1) おおひとやまの石を持ち帰る人の気持ちについて考える。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 250px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幸せになりたい。 ・ これで自分は幸せになれそう。 </div> </div> <p>(2) 石を持ち帰ってはいけないきまりができて、こっそり石を持ち帰る人の気持ちを考える。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 250px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分くらいいいだろう。 ・ 見つからなければいいだろう。 ・ きまりがあっても、自分は幸せになりたいんだ。 ・ 他の人も持って帰っているからいいだろう。 </div> </div> <p>(3) こっそり石を持ち帰る人に何と声を掛けるか考え、グループで伝え合ったり、全体で役割演技をしたりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> こっそり石を持ち帰る人に、何と声を掛けますか。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 45%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「持ち帰ってはいけないきまりを守って。」</p> <p>・ きまりはみんなが気持ちよく過ごすためにあるから。(対周囲)</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「持ち帰ったらいけないよ。」</p> <p>・ 山が小さくなってしまいうから。(対周囲)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「山が小さくなってしまよ。」</p> <p>・ 山が小さくなると村が水浸しになるから。(対周囲)</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「自分のことだけ考えたらいけないよ。」</p> <p>・ 自分勝手にすると、自分が痛い目に合うから。(対自分)</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> きまりを守ることは、みんなが気持ちよく過ごすことにつながる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 自分が幸せになれるなら、少しくらいならきまりは守らなくてもよいのではないのでしょうか。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ きまりは、みんなが気持ちよく過ごすためにあるからだめ。 ・ 少しだからと思ってきまりを守らないと困ることがある。 </div>	<p>○ 事前の「規則の尊重」の学習の振り返りの記述を確認した後、具体的な生活場面を提示することで、きまりは守るべきと分かっているにもかかわらず実現できないことがあると気付くようにする。【主・深】</p> <p>○ 自分のめあてを考慮することで、きまりをいつでも守るための考えや態度について主体的に考えるようにする。【主】</p> <p>○ きまりを守らず石を持って帰る場面を動作化することで、自分が幸せになりたいという気持ちに負け、きまりを守れない人々の気持ちを自分と重ねながら考えるようにする。【主・対】</p> <p>○ こっそり石を持ち帰る人に何と声を掛けるか考え、その理由までワークシートに記入させる。その後、グループで考えを伝え合い、考えを対自分と対周囲に分類をする。そうすることで、友達との考えと自分の考えを比べながら伝え合うことができるようにする。【対】</p> <p>○ グループで考えを伝え合った後、全体で役割演技を行う。その際、対自分の考えか対周囲の考えなのかも伝え合うことで、きまりを守ることは、みんなの安全で安心な生活につながると気付くことができるようにする。【深】</p> <p>○ 「少しくらいならきまりを守らなくてもよいのではないか。」と発問することで、自分勝手な気持ちに負けず、きまりを守るために大切なことを考えることができるようにする。【深】</p> <p>◆ 自分自身を振り返り、自分勝手な気持ちに負けず、きまりを守って生活をするための大切さを考えることができたか。 【発言、ワークシート】</p> <p>☆ きまりを守れている生活場面を提示することで、これからは自分勝手な気持ちに負けず、きまりを守っていくという実践意欲を高めるようにする。【主・深】</p>
見 つ め る (28)	<p>4 きまりについて本時で考えたことを振り返る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> きまりはみんなが気持ちよく過ごすためにあるもの。自分勝手に行動しないで過ごしたい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 少しくらいならいいかなと思ったら、きまりを守らないと困る人もいることを思い出そう。 </div> </div> <p>5 きまりを守ることができていることを確認し、実践意欲を高める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> どうしてもしたいことがあったら、少しくらいならきまりを守らなくてもいいのではないかな。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 図書館は多くの人が本を読む場所だから、これからも図書館のきまりを守って静かに本を読みたい。 </div>	<p>◆ 自分自身を振り返り、自分勝手な気持ちに負けず、きまりを守って生活をするための大切さを考えることができたか。 【発言、ワークシート】</p> <p>☆ きまりを守れている生活場面を提示することで、これからは自分勝手な気持ちに負けず、きまりを守っていくという実践意欲を高めるようにする。【主・深】</p>
深 め る (5)		
高 め る (5)		

第1学年「すこしだからいいのかな」(C 規則の尊重)における授業構想シート

育成を目指す資質・能力

きまりを守ることは大切であっても実現できないことがあることに気づき、みんなが気持ちよく過ごせるようにするためにきまりを守っていかうとする。

本時で働かせたい「見方・考え方」

見方(～に着目して)

考え方(思考の枠組み・方法)

きまりを守れたり、守れなかったりする行為に関わる周囲の人への影響に着目し、登場人物の心情と自分の考えを関係付けたり、自分の考えと友達の考えを比較・分類したりして、きまりを守っていかうと考える。

「見方・考え方」を働かせた子供の発言の想定と教師の言葉掛け

課題解決で働く「見方・考え方」



人々は、石を持って帰ってはいけないというきまりを守らなくてもいいと思っていたのでしょうか。

こっそり持ち帰っていたから、きまりは守らないといけないという事は分かっていたと思います。



こっそり石を持ち帰る人はどのような気持ちで石を持ち帰っていたのでしょうか。

自分くらいいいだろう。(動作化)



見つからなければいいだろう。(動作化)



こっそり石を持ち帰る人に何と声を掛けますか。その理由まで考えてみましょう。

持ち帰ってはいけないというきまりを守って。なぜなら、きまりは、みんなが気持ちよく過ごすためにあるからです。(役割演技)



持ち帰ったらいけないよ。なぜなら、たくさんの人が石を持ち帰ると、山が小さくなってしまうからです。(役割演技)

山が小さくなってしまふよ。なぜなら、山が小さくなると村が水浸しになってしまうからです。(役割演技)



3人とも村の人や山のことを考えているね。

村の人や山のためと思うときまりを守れそう。そして、きまりを守ることは、みんなが気持ちよく過ごすことにつながるね。



周りの人のことも大切ですが、自分が幸せになれるなら、少しくらいならきまりは守らなくてもいいのではないのでしょうか。

いけないと思います。だって、きまりはみんなが気持ちよく過ごすためにあると前の道徳の時間でも考えたからです。



少しくらいならいいかなと思ってきまりを守らないと、おおひとやまの話みたいにみんなが困ることになると思います。

自分勝手にしないで、みんなが気持ちよく過ごすことができるようにきまりは守っていきたいです。



きまりを知っていてもこっそり石を持ち帰る登場人物の気持ちに着目し、登場人物と自分の考えを関係付ける。

どうすればきまりを守ることができたか具体的な行為とその理由に着目し、自分と友達の考えを対自分と対周囲の考えに分類し、比較する。

きまりを守ることの大切さに着目し、自分勝手な考えに負けず周りのみんなが気持ちよく過ごせるようにしたいという考えと自分の実生活とを関係付け、今後のよりよい過ごし方を考える。

振り返りにおいて期待される子供の発言や記述

- ・ きまりはみんなが気持ちよく過ごすためにあるもの。だから、自分勝手にしないで過ごしたい。
- ・ 少しくらいならいいかなと思ったときは、きまりを守らないと困ることになることを思い出したい。